

公共サービスにもっと投資を！

キャンペーン県内街頭行動日

3月23日(水) 17:30~19:00 日立駅中央
 3月24日(木) 17:30~19:00 牛久駅東口
 3月25日(金) 17:30~19:00 水戸駅南口

自治労茨城

水戸市桜川 2-3-30 自治労茨城県本部

Eメールアドレス kenhonbu@j-ibaraki.jp

編集発行人 = 千歳益彦

毎月5の日発行

定価 = 1部5円(組合費に含む)

印刷所 = コトブキ印刷株式会社

連合茨城 春季生活闘争総決起集会

未来見据え人への投資を



三の丸庁舎広場で会長挨拶を聞く参加者

連合は、「未来をつくる。みんなであつくる。」をスローガンに掲げ、2022春闘に取り組んでいます。大手企業組合が春闘のヤマ場を迎えようとする中、連合茨城は3月5日「2022春季生活闘争

要求実現総決起集会」を水戸市の三の丸庁舎広場で開きました。集会では、はじめに主催者を代表し、内山会長があいさつしました。会長は、「20年以上にわたる賃金水準の低迷は不安定雇用の拡大、中間層の収縮、貧困や格差拡大など分配のゆがみをもたらし、さらにコロナ禍の影響もある。この状況を突破し未来を切り開くには経済成長の後追いではない経済・社会の原動力となる「人への投資」を求める「未来づくり春闘」に取り組む。職場環境の

課題を協議できるのは労働組合であり、職場と社会の未来を変えていくのは労働組合に集う私たちだけである。誰もが安心して働ける環境整備、分配構造の転換につながる賃上げに取り組む、すべての働く仲間の下上げのため粘り強く取り組みました。

世界の恒久平和を求める

ロシアの軍事侵攻非難

集会後、参加者はロシアのウクライナへの軍事侵攻に対し「戦争反対」「核兵器を使うな」「平和と対話を」などのプラ

カードを掲げるアピール行動を行いました。連合は、領土と主権を侵害し紛争の平和的解決を義務づける国際法に反



ロシアのウクライナ軍事侵攻に対しプラカードを掲げてアピール



単組代表者にあいさつする千歳委員長

県本部臨時大会成功にむけ

単組代表者会議開く

県本部は3月8日、自治労会館で単組代表者会議を開きました。冒頭、千歳委員長はあいさつし、「今春闘期は「1単組3つの要求」を掲げ取り組んでいる。定年引き上げ、6月の一時

金減額調整など多くの課題を抱える中、2021年度補正予算で創設された保育・医療・社会福祉職場の処遇改善では県内多くの単組で補助金活用を見送る状況だが、県病院局労組は看護師やコメ

ペーン」を浸透させる取り組みを展開しよう」と訴えました。会議では生井澤書記長から、自治労の春闘取り組み状況と、2月に実施したストライキ批准投票について茨城県本部投票率63・97%、批准率60・

98%、全国では76・38%の批准率で闘争指令権が確立されたことが報告されました。書面審議となっていた県本部第1回中央委員会承認が確認されたこと、3月11日開催予定の県本部臨時大会にむけた役員選挙について3月3日に公示されたことも合わせて報告されました。

また、役員推薦委員会から、次期役員体制確立にむけて各ブロックからの立候補者の推薦決定の報告を受けました。質疑では、「会計年度任用職員の賃金改善を求める首長提出署名」をはじめ各単組状況に応じた組織強化策を(那珂市職)、ストライキ批准投票率向上の取り組み支援を(行方市職)、ロシアのウクライナ軍事侵攻について臨時大会方針補強(日立市職)の意見がありました。

新しい団体生命共済「全員加入」めざす

改正団体生命共済の取り組みについて花島副委員長、花岡県支部事務局長が提起しました。この間、「県本部の新たな共済推進方針」が確認されています。これは、団体生命共済の20

22年6月改定を機に、共済推進運動を自治労組織の強化・拡大のための重要課題の一つとして位置づけ、組合員の「全員加入」という大目標達成にむけ取り組むというものです。助け合いの共済

推進運動は、組合員の相互扶助と団結強化という労働組合の原点でもあり、一人ひとりの暮らしのニーズに合わせた制度活用により組合員とその家族を安心した生活へとつなげます。

方針では、各ブロックや各単組での共済制度学習、単組加入率に応じた段階的な取り組み計画策定などが提案されました。方針を着実に実行するため、各単組での共済推進活動を一転させましょう。

掛け捨ては損だと決めつけていませんか？

掛け捨てのよさは掛金の額！

満期金や返戻金がないからこそその手頃な掛金しかも充実の保障

その考え、危険です

死亡保障はもちろん、自慢の医療保障

- けがも病も日帰り入院保障
- 連続5日以上成人病入院には上乗せ保障
- さまざまな通院の保障
- 入院の有無を問わない手術の保障
- 診断料の補助

ムダなく必要な保障は団体生命共済で

5120F033

団体生命共済

団体定期生命共済

不明な点があれば、まずは組合にご連絡ください。

こくみん共済「全共済」

自治労共済

推進本部

全日本自治体労働者共済生活協同組合

「こくみん共済 coop」は営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、相互扶助の精神にもとづき、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしに貢献することを目的としています。この趣旨に賛同いただき、出資金を払い込んで居住地または勤務地(先)の共済生協の組合員となることで各種共済制度をご利用いただけます。

※契約にあたってはパンフレットをご覧ください。

医療現場の改善めざす

衛生医療評議会が総会

県本部衛生医療評議会は、2月27日に自治労会館で総会を開きました。宮本議長は、「コロナ禍ではあったが、最低限の活動は行うことができ、ご協力に感謝する。」



衛生医療評議会総会であいさつする宮本議長

医療現場は以前にも増して厳しい労働環境だが、処遇改善のために引き続き取り組んでいこう。また、第26回参議院選挙では自治労組織内候補予定者の鬼木さんへの支援の

特別対談2

第26回参議院議員選挙・自治労組織内候補予定者

おにき

鬼木まこと



自治労茨城県本部執行委員長

千歳益彦

“コロナ禍と公共サービス”

あらゆる職場で無理が噴出、現場の皆さんに多大な業務負担

千歳 私たちが担う公共サービスの職場環境は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって一変しました。現在、鬼木さんは全国の組合を回っていますが、どのようなことにお感じになりましたか。



鬼木 組合を回って意見交換をしながら状況を教えていただくと、新型コロナウイルス感染症が現場に与えた影響は本当に大きいと実感しています。コロナ禍になる以前から定員が減られ、職場の統廃合は進み、公共サービスがどんどん細く小さくされてきた中でも、現場の組合員の皆さんが必死になって踏ん張りながら、頑張っ、なんとか職場を守ってきました。その状況下にこの新型コロナウイルス感染症の感染拡大が大きいのしかかって、一気に無理が噴出した状況にあると受け止めています。

千歳 とくにワクチン接種対応は大きな負担になっています。

鬼木 それは間違いありません。準備や実施だけでなく、感染者への対応も必要ですし、とくにワクチン接種の主体となった地方自治体においては、担当する課だけでは人が全然足りていません。別の課から応援を集めて体制を強化しても、応援した課の日常業務が回らなくなります。その結果、役所全体で一斉に業務負担が組合員の皆さんに蓄積していく状況になってしまいます。本当に、ギリギリのところをなんとか持ちこたえている状況です。現場では、「メンタルヘルス不調の職員が増えている」「長期病休になる職員が増えている」というお話もたくさんお聞きします。

千歳 通常にない業務負担という点では、災害対応と似た構図ですね。

鬼木 九州でよく声にあがったのは、コロナ禍における避難所運営が大変だということです。新型コロナウイルス感染症対策で密を避けるためには、避難所を増やさなければならず、例えば、今まで50人収容だった避難所を25人にすると、同じ規模の避難所がもう一つ必要になります。そして、消毒や換気などの対応といった、従来とは異なる業務の増加が大きな負担になっているという実情を、意見交換の中で教えていただきました。(後号に続きます)

地域医療構想の再議論を

地域医療ウェブセミナー

総会後は、本部主催の「地域医療ウェブセミナー」に参加しました。はじめに、病院の再編・統合の動きに対する取り組みについて2単組から報告がありました。次に、ニッセイ基礎研究所の三原さんが講演。三原さんは、政府の「地

域医療構想」は、「過剰な病床の適正化」のみが議論され、もう一つの目的である「切れ目のない医療提供体制の構築」には全く触れていないと指摘しました。

現在、「地域医療構想」の議論はストップしていますが、コロナ禍で公

い。組合員からはパワハラやセクハラの報告もあり改善しなければいけない課題が多くある。県内単組や全国の仲間とさらに連携を強め、解決にむけ力を合わせ取り組んでいこう」とあいさつしました。

衛生医療評議会役員体制

議長	山田 公治 県職連合・県立中央病院
副議長	大友 晴美 北茨城市職連合・北茨城市民病院
事務局長	柳生 貴史 県本部
幹事	浦住 優子 北茨城市職連合・北茨城市民病院
幹事	橋本 大志 笠間市職・笠間市立病院
幹事	三村 美咲 笠間市職・笠間市立病院
幹事	関 京子 県職連合・県立中央病院
幹事	園原 一恵 県職連合・県立中央病院
幹事	飛田 将司 県職連合・県立中央病院
幹事	勝田 康大 県職連合・こころの医療センター

基地撤去・平和を願う

百里平和公園で初午祭り

自衛隊基地撤去、日米共同訓練反対などを掲げた「2022年百里初午祭り」が2月11日、小美玉市の百里平和公園で開かれました。

この初午祭りは1966年に1回目が開催され、以後、毎年2月の建国記念の日に行う百里基地反対運動の一つです。集会では、百里基地反

対同盟など各団体からあいさつが行われ、自衛隊訓練機による騒音問題、オスプレイ機の百里基地飛来反対や配備阻止、日米共同訓練、加速

立・公的医療機関の果たした役割を再認識させ、病床数の削減や再編・統合が拙速な見直しとならないよう意見反映をしていかなければなりません。

最後に、岸田政権による改憲阻止、戦争をする国づくりへの反対と自衛隊百里基地撤去を地域から強めようとする平和を願うアピール案が採択され、集会を終了しました。



百里平和公園で開かれた初午祭り

YouTube「鬼木まことチャンネル」のチャンネル登録をお願いします!

ここだけの情報も発信中!

鬼木まこと